

分科会①(小中学校部会)

「図書館運営における新型コロナウイルス感染防止対応アンケート」集計結果発表

長野県図書館協会小中学校図書館部会

1 アンケートの概要

(1) 調査の目的

休校中・再開後の対応を記録・共有し、今後同様の事態が起こった場合に備える。

(2) 調査方法と期間

県内すべての小中学校を対象に依頼し(専用パソコンを貸与されていない司書が多いため手書き記述、様式入力どちらも可とした)、令和2年11月17日から12月17日に回収。

同時に「図書館 ICT 環境アンケート」も依頼、回収した。

(3) 回答者内訳

回答があったのは439校、うち小学校280校、中学区149校、小中学校6校、養護学校4校であった。

回答者役職では学校司書が回答者の57%、ついで教諭、司書教諭の順であった。

(4) 集計方法

寄せられた回答を、まず児童生徒数50名以下の小規模校、51名から99名までの中規模校、100名以上の大規模校に分け、それぞれ集計を行った。自由記述部分については、すべての回答を文書化し、司書教諭委員、学校司書委員が幹事の先生方の助言のもとに精査、抽出した。

(4) 調査の方法

設問は主な対策を選択して○印をつけるもの以外は自由記述の方式をとり、手書きで記入したものをファックス送信してもらう方法であった。

設問

1 新型コロナウイルス対策として、これまで実施したこと全てに○印をつけてください。(選択式・その他項目は記述)

2 新型コロナウイルス対策で、過去困ったこと、解決策、現在困っていることは何ですか。(過去・解決策・現在それぞれに記述)

3 図書館での授業や児童会(委員会)活動をどのように行っていますか。(授業・委員会それぞれに記述)

4 今年度ボランティアによる読み聞かせを行いましたか。あるいは、今後予定がありますか。(選択式・時期と方法は記述)

5 新型コロナウイルス感染防止から今後の図書館運営でご心配なことをお書きください。(記述)

2 集計の過程から

自由記述で記入してもらったため、数値でははかれない、現場ならではの悩みが寄せられた。集計には長時間を要したうえ、その他回答欄に、ICT 活用が進むなか、このような手書

きファックスといったアナログな方式でアンケート行うことへのお叱りの記述もあった。

結果として、その時、学校図書館で何が起きていたか、どのようなことに困って、どのように工夫して解決に向かっていったのか、あるいはいまだ解決できていないか、たくさんの困りごとが浮かび上がってきた。

その記述について、抽出したりまとめたりしてしまうことに戸惑いがあったが、発表にあたってはすべてをご報告することができないため、簡潔にまとめたものを資料として添付する。

児童生徒が消毒を行っていたり、消毒液の種類がさまざまであったり、図書館に消毒液が回らなかつたりといった現実。アクリル板やブックラックがないという悩み。学校規模によっては、図書館での授業も委員会も読み聞かせも通常通り行えるケースもあり、一律のルールではなく、学校ごとに話し合いの時間を確保し対策を協議しつつ、他校、他市町村の取り組みを知り、取り入れることも必要である。

困っていることの解決策のなかで、対応に際し、全国学校図書館協議会策定のガイドライン(令和2年5月策定、6月更新、8月と9月に一部更新)を参考にしたという記述があった反面、ガイドラインの存在を知らなかったという学校も多かった。このガイドラインでは公共図書館の対応よりもより現場のニーズに近い学校図書館独自の対策について記されており、非常に参考となる指針である。このことから、学校図書館職員の情報収集スキル向上が課題であることが分かる。そのため、司書教諭、学校司書間の横のつながりが重要であり、長野県学校図書館協会がその貴重なつながりの、あるいは情報発信の場であることにふれておきたい。

3 まとめ

多忙な業務の中、回答にご協力いただいた全県の小学校、中学校、小中学校、養護学校の職員の方々に感謝を申し上げたい。また集計にあたっては長野市学校司書の自主研究グループである「十色の会」に、工夫をこらした図書館のコロナ対策写真の提供には大北支部の学校司書のみなさんにもご協力いただいた。困ったときに、気軽に声をかけられるつながりは、アナログであるが、なくせない大切なものだと感じた。

県内の学校図書館を横断的につなぐ組織である県図書館協会には感染レベルや学校規模に応じた対応の検証を今後も継続して行い、困ったときの指針のひとつとして策定することが求められている。地域をこえた司書教諭、司書同士の横のつながりの必要性和、学校図書館職員による情報収集スキル向上の重要性をあらためて認識したい。(朝陽小学校 山崎)